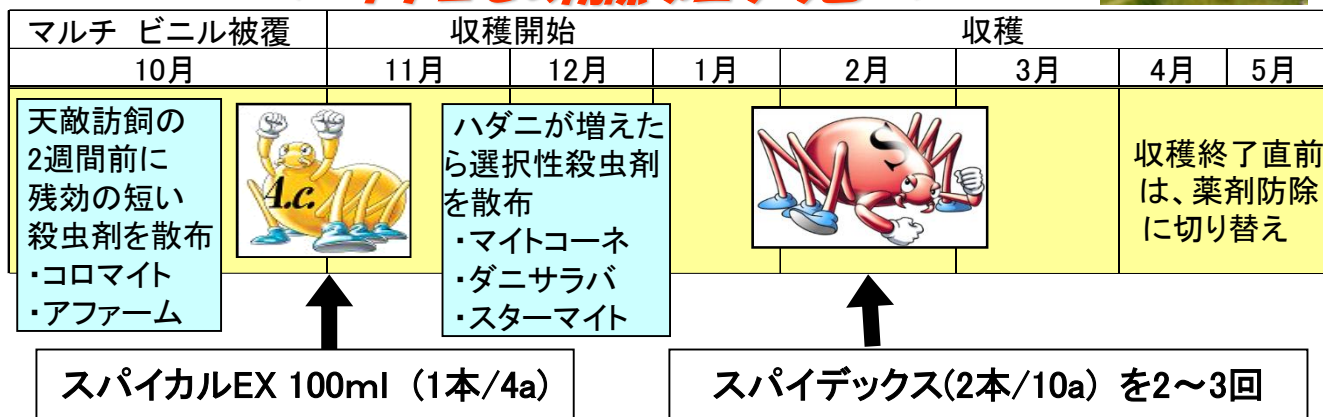


スパイカル[®] EX 100ml



<イチゴでの防除プログラム>



<失敗しないためのポイント>

- ✓スパイカルEXの導入前に、薬剤を散布して、ハダニの密度を限りなくゼロにしておく(ゼロ放飼)。但し、有機リン剤や合成ピレスロイド剤を使用しない。
- ✓天敵は生き物なので、到着後ただちに放飼し、保存しない。
- ✓天敵はムラのないようにできるだけ多くの箇所に放飼し、特に高設栽培では均一に細かく行う。
- ✓天敵は注文してから納入まで最短2週間かかるので、防除計画をしっかりと立ててから導入する。
- ✓天敵放飼後は影響のある薬剤を使用しない。
- ✓天敵放飼直前や放飼後すぐにハダニの発生が見られる場合(ゼロ放飼ができていない場合)はマイトコーネFLまたはダニサラバFLを放飼から3~5日後に散布する。
- ✓スパイカルEX放飼と同時にスパイデックス(1本/10a)を放飼すると、より効果的。

<ハダニ以外の害虫防除(いちご)>

◆アブラムシ類の防除

- ・天敵放飼前はモスピラン水溶剤(または粒剤)、バリアード顆粒水和剤で防除(アザミウマとの同時防除)。
- ・天敵導入後は、チェス顆粒水和剤、ウララDFを散布(天敵に影響ない)。
- ・粘着トラップ ホリバー・イエローを50枚/10a施設内に設置。

◆スリップス類の防除

- ・天敵放飼の2~3週間前にアフーム乳剤を予防散布(ヨトウ類との同時防除)。
- ・天敵放飼前はモスピラン水溶剤などで防除(アブラムシとの同時防除)。
- ・ハウスのサイドを閉め切る12月中旬頃にマッチ乳剤を予防散布してアザミウマの年越しを防ぐ。
- ・2~3月にカスケード乳剤やモスピラン水溶剤を予防散布する。散布はスパイデックスの追加放飼前に行うと影響が少ない。
- ・4月以降は、スリップス類の防除を優先し、カブリダニに影響がある薬剤(スピノエース顆粒水和剤など)も利用する。
- ・粘着トラップ ホリバー・ブルーを100枚/10a施設内に設置。

<ミヤコカブリダニに対する薬剤の影響(いちご)>

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤	若干影響ある殺虫剤	影響のある殺虫剤
ハダニ類	マイトコーネ、ダニサラバ、スターマイト、オサダン、カネマイト(薬害注意)	アカリタッチ、粘着くん、エコピタなど(直接かかれば影響あり)	コロマイト、サンマイト、ダニトロン、アフーム、コテツなど
アブラムシ類	チェス、ウララ	モスピラン、バリアード	アーデントなど
アザミウマ類	マイコータル、ボタニガード水和剤、マッチ、カスケード	モスピラン、スピノエース	アーデントなど
ヨトウ類	プレオ、プレバソン、フェニックス、カスケード、ノーモルト	スピノエース	アフーム、アニキ

スパイカルEX(100ml)の放飼方法

2015.4改訂

1. 放飼前

目安用の目盛り線を引きます。容器を10分程横向きに静置します。放飼直前にゆっくり10回転させて(→右図)、ミヤコカブリダニが均一になるようにしてから放飼します。



2. 放飼準備

- ① 細い棒状のものでメッシュ部を押してキャップとメッシュの接着部を外します。
- ② キャップの内側からメッシュを完全に取り外します。
- ③ メッシュが取り除かれ、穴の開いたキャップをボトルにはめます。



メッシュを棒で押し



内側からメッシュを外す



キャップを戻す

3. 放飼方法

- ☑ 10a当り1~3本が目安です。
- ☑ 散布回数は200回ほどです。(→右図)
- ☑ 一振りずつ、株上から振りかけます。
- ☑ 少量ずつ圃場全体にもしくはハダニの密度が高い場所に重点的に撒きます。



- ※ 振る角度を変えることで、放飼量が変わります。地面に垂直にすると放飼量は少なめになります。(←左図)
- ※ 振り始めは、内容物が出にくいことがありますので、地面に対して角度を弛めるか、ボトルを起こしながら振るようにしてください。



4. 放飼後

- ☑ 余った場合は、害虫の発生しやすい場所に重点的に撒いて下さい。
- ☑ 放飼後は、フタとボトルを株元に横向きに静置して下さい。残ったミヤコカブリダニが歩いて外に出て行きます。(→右図)



天敵農薬に関する情報を定期的にお届けします。「アリスタIPM通信」配信ご希望の旨と、ご住所、ご氏名、栽培作物、メールアドレス(携帯不可)を下記メールアドレスへ お知らせください。 tenteki@arysta.com